

十八年前、工学部教授
になったばかりの著者
は、あることに気づき、
がくせんとする。

「今の社会構造の
ままだと、数十年の
うちに地下資源が枯
渇し、廃棄物により
環境が悪化する。こ
の地球、この社会は
持続可能になってい
ない」。四十二歳、
子どもに誇れる学究
生活をしていたとい
う自負が崩れた。

では、どうすれば
よいかを突き詰めた
一冊。鈴木嘉彦著「持
続可能社会のつくり方」(日
科技連出版・一八九〇
円)は、未来世代を判断

基準に加えると何が変わ
るのか、真剣に問い掛け
る。

「地球の性質」「環境
倫理学と未来世代」「ミ
ニモデルとしての山梨
県」など論じ、持続可能
な仕組みづくりを探

地球に優しい社会像例示

る。現代社会に価値観
転換を求めるための方
法論や、ドイツでの先
進例なども紹介。地域
社会が環境に優しくな
るための具体的なヒン
トとなるエネルギー確
保のモデルも提示す
る。

エピソードのメッセ
ージに、山梨県とはか
かわりの深い政治家・
石橋湛山の予言「わが
国の前途は科学的思考で
洋々たりうる」を引き、
未来世代に配慮した新
しい社会づくりを訴え
る。



著者は山
梨大工学部
長、同大学
院医学工学
総合教育部
長。